



先天性股関節脱臼を防ぎましょう	1ページ
三重病院職場訪問 タケオの部屋②／医療福祉相談室だより／「市民公開講座」のお知らせ	2ページ
糖尿病ワンポイントアドバイス「糖尿病をそのままにしておく…」／医療安全管理室からのお知らせ⑫	3ページ
アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

## 先天性股関節脱臼を防ぎましょう

股関節脱臼の主な原因は、関節弛緩（関節のゆるみ）や臼蓋形成不全（股関節の屋根の発育が不十分）に加えて、出生後のきついオムツや服装、赤ちゃんの抱き方などの育児習慣、環境因子によって生じるという考えが有力です。最近、全国的に股関節脱臼が増加傾向と言われており、育児指導の再徹底による予防強化や、乳児健診から2次検診への連携による早期発見、早期治療が重要になります。

日本小児整形外科学会でも昨年7月、先天性股関節脱臼の発生件数や診断時年齢、治療方法、健診システムの現状などについての全国調査が開始されました。また同時に、昨年8月、脱臼を予防し、早期発見できるように注意を喚起するため、先天性股関節脱臼予防パンフレット（保護者向け）、乳児股関節健診推奨項目（乳児健診医向け）が作成されました。「日本小児整形外科学会ホームページ」で一般に公開され、誰でもダウンロードできるようになりましたので、一部図を挿入してご紹介いたします。

いつも顔が同じ方ばかり向いている向き癖（矢印1）は、向いている側の反対の脚がしばしば立て膝姿勢となってしまう、これが股関節の脱臼を誘発することがあります（矢印2）。

—赤ちゃんが股関節脱臼にならないよう注意しましょう—

\*今、大丈夫でも、これから脱臼することがあります！

1. 女の子
2. 逆子（骨盤位）で生まれた
3. 寒い時期（11月～3月）に生まれた
4. 家族に股関節の悪い人がいる
5. 向き癖がある

こんな場合は要注意！

\*1～5が複数当てはまる場合は特に注意が必要です

赤ちゃんの脚は、両膝と股関節が十分曲がったM字型で、外側に開いてよく動かしているのが好ましく、立て膝姿勢をとったり、脚が内側に倒れた姿勢をとったりすると（矢印2）、股関節が徐々に脱臼してくることがあるとされています。

両脚がM字型に開かず伸ばされたような姿勢も同様に、要注意とされています

予防については、コアラ抱っこと自由な下肢の運動、向き癖矯正のため、反対側から話かけることなどが勧められています。



1. 向き癖

2. 立て膝、脚が内側に倒れた姿勢



コアラ抱っこ



両脚が十分曲がりM字型をしている

1か月と3～4か月の健診でチェックを受け、異常を疑われた場合は整形外科を受診することになりますが、気になる点がある時はいつでも整形外科を受診して下さい。

診察時は、特に股関節開排（開き）制限に注意しますが、開排時の整復感（クリックと言いかちりとはまる感覚）や股関節過開排（開き過ぎ）にも注意が必要で、開排制限のない脱臼例も存在します。従って、問診、身体所見のみで乳児股関節異常

をもなくスクリーニングすることはできません。注意深い経過観察や画像診断が必要となることがあります。

判断に迷われるときや、「もしかして…」と思われたときは、ご遠慮なく整形外科を受診してください。まだまだ寒さも続きますので季節的にも注意が必要です。パンフレットは整形外科外来、小児科外来に用意してあります。お気軽に声をおかけください。  
（整形外科 西山 正紀）